

年間授業計画

成瀬高等学校 令和 6 年度 （第 2 学年用） 教科 家庭 科目 家庭基礎

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 6 組

単位数： 2 単位

使用教科書： （ 東京書籍 家庭基礎 自立・共生・創造 ）

教科 家庭

の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体
- 【思考力、判断力、表現力等】家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するな
- 【学びに向かう力、人間性等】様々な人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しよ

科目 家庭基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組み、振り返って改善し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	家庭科の学び方 第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる 【知識及び技能】 ・ライフステージごとの特徴・課題を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の特徴や長所に気づき、人生を展望できるようにする。 ・家族に関する法律の理念や背景、改正点について理解する。 ・法律は自分たち一人ひとりの認識にもとづく社会の要請を受けて検討、改正されていくことを理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・人生をデザインするうえで必要な準備を考え、シミュレーションする。 ・こんにちの社会背景を踏まえて、具体的に生涯にわたる生活設計を考える。	1 人生を展望する 2 目標を持って生きる 1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる 3 これからの家庭生活と社会	【知識・技能】 ・自分自身について考えるワークシートや将来についてのレポートなどを通して、自分や、人の一生についての考えをまとめることができる。 ・青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力などについて理解できる。 【思考・判断・表現】 人生の各ライフステージの特徴と課題について知り、社会状況を考えながら、自分の生活や将来について考えを深め、発表などを通じて考えを表現することができる。 ・男女共同参画社会の実現をめざす歩みと社会的背景について理解し、どのような青年期を生きるかを考えることができるようになる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・現在の自分のこと、将来の生活設計を考えることについて、意欲を持ってとりくもうとしている。 ・結婚、家族・家庭の形、家族・家庭の役割について、自分とどうかかわっているのか、興味・関心をもとうとしている。	○	○	○	10
	第6章食生活をつくる 【知識及び技能】 ・栄養素の種類と働きやそれぞれの栄養素が多く含まれる食品についての基礎的な知識を身に付ける。 ・食中毒に対する予防法を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 ・季節ごとに旬の食材があることを理解する。 ・表示の読み方を理解し、情報を正確に把握する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・衛生と安全に配慮して、調理することができるようになる。	1 食生活の課題について考える 2 食事と栄養と食品 3 食生活の選択と安全	【知識・技能】 ・調理実習を通して、日常の食事づくりに必要な調理技術を身に付け、献立作成から後かたづけまでの一連の流れを計画し実践できる。 【思考・判断・表現】 ・栄養の機能と食品のかかわり、また食品の特性と調理との関係において、科学的な思考を身に付け、食品選択、栄養計算や献立作成など、実際の食事づくりにむけての判断ができる。 ・調理実習において、作業の流れを判断しながらとりくむことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食品と栄養、調理との関係において、科学的な視点をもって、知識を深めようとしている。	○	○	○	14
	定期考査						1
	【知識及び技能】 ・衛生と安全に配慮して、調理することができるようになる 【思考力、判断力、表現力等】 ・調理実習において、作業の流れを判断しながらとりくむことができる。 ・食の安全と環境に配慮した食生活を送ることができるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・調理実習においては、積極的に参加し、とりくもうとしている。	4 生涯の健康を見通した食生活 5 調理の基礎 6 食生活の文化と知恵 7 これからの食生活	【知識・技能】 ・調理実習を通して、日常の食事づくりに必要な調理技術を身に付け、献立作成から後かたづけまでの一連の流れを計画し実践できる。 【思考・判断・表現】 ・栄養の機能と食品のかかわり、また食品の特性と調理との関係において、科学的な思考を身に付け、食品選択、栄養計算や献立作成など、実際の食事づくりにむけての判断ができる。 ・調理実習において、作業の流れを判断しながらとりくむことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食品と栄養、調理との関係において、科学的な視点をもって、知識を深めようとしている。	○	○	○	8

2 学 期	第3章 子どもと共に育つ 【知識及び技能】 ・子どもの食生活・衣生活、遊びについて理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・子どもの食生活・衣生活、遊びについて理解を深める。 【学びに向かう力、人間性等】 ・育児を学ぶ意義について理解する。 ・10代の健康が、将来生まれてくる子どもにつながっていることを理解する。 ・子どもの世界と出会うことによって、自己理解を深める。	1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る 3 子どもと関わる 4 これからの保育環境	【知識・技能】 ・子どもの心身の発達や子どもの生活についての知識を身につけている。 ・子どもとの接し方、子どもの衣食住にかかわる物づくりなどの技術を身につけている。 【思考・判断・表現】 ・子どもの生活やとりまく環境、また、現在の子育ての環境や地域社会や国の支援策や課題などについて、情報を収集し、まとめることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・子どもをとりまく状況について、現状を知り、その課題を見つけ、解決に向けて考えようとしている。	○	○	○	12
	第4章 超高齢化社会を共に生きる 【知識及び技能】 ・高齢者、高齢社会への理解を世界の動向からも深める。 ・高齢者の心身の特徴や生活を客観的に理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・個人や家庭生活を支える社会保障制度や社会福祉についての重要性を理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・高齢者施設での利用者の過ごし方、どんな人が働いているかについてまとめる。	1 超高齢・大衆長寿社会の到来 2 高齢者の心身の特徴 3 これからの超高齢化社会	【知識・技能】 高齢社会の現状や高齢者の心身の特徴について理解している。 【思考・判断・表現】 ・高齢社会の現状や高齢者の生活を知ることにより、高齢者の自立した生活とは何か、自分の考えをまとめることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・高齢社会の現状、高齢者の心身の特徴や生活について積極的に知り、高齢者とかわるうとしている。	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
3 学 期	第7章 衣生活をつくる 【知識及び技能】 ・衣服の表示にはどのような種類があるのか、なぜついているのかを理解し、購入から洗濯などの管理に役立てる。 ・衣服製作を通して、衣服の構成や基礎的な縫製技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・洗剤・漂白剤・防虫剤などの種類について理解し、衣服の種類に応じた適切な選択や保管ができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・衣服の表示にはどのような種類があるのか、なぜついているのかを理解し、購入から洗濯などの管理に役立てる。	1 被服の役割を考える 2 被服を管理する 3 これからの衣生活	【知識・技能】 ・衣服材料の性能と特徴、衣服整理についての科学的な知識を身につけることによって、衣服を適切に選択し、管理することができる。 【思考・判断・表現】 ・衣服材料・衣服整理についての基礎的な知識を身につけ、実生活での衣服管理において、適切な判断ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自分の衣生活をとりまく状況について関心をもち、衣生活の改善・向上に積極的にとりくもうとする。 ・基礎縫いの確認のための実習や、衣服調査などにおいて、積極的にとりくもうとする。	○	○	○	8
	第8章 住生活をつくる 【知識及び技能】 ・ライフステージや住まう人の住欲求によって平面計画が変化することを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・住まいの生活空間の機能を理解し、空間の特徴や家族のイメージをすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・誰もが安全に住むための工夫を考える。	1 住生活の変遷と住居の機能 2 安全で快適な住生活の生活 3 住生活の文化と知恵 4 これからの住生活	【知識・技能】 ・日本独特の生活様式と、それに伴う住まいの特徴を理解している。 ・住まいの安全対策、住まいにおける健康管理など、実生活に役立てることができる。 【思考・判断・表現】 ・住まいの管理方法について、適切な掃除や頻度を考え、判断することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・住まいの機能、住空間の計画や住環境について関心をもち、快適な住まいづくり、よりよい住生活の創造にむけて意欲的にとりくもうとする。	○	○	○	6
	第9章 経済生活を営む 【知識及び技能】 ・消費行動における意思決定の過程とその重要性について理解でき、また契約についての知識を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・消費者としての自覚を持ち、消費者の権利と責任を考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・日々の暮らしの中で、持続可能な社会をめざした行動をすることができるようになる。	1 情報の収集と比較、意思決定 2 購入・支払いのルールと方法 3 消費者の権利と責任 4 これからの経済生活	【知識・技能】 ・契約、多様な販売方法や支払方法、問題商法について理解する。また、被害にあった場合の解決方法についても理解する。 【思考・判断・表現】 ・消費者の権利と責任について理解し、消費において自主的に行動することの必要性を理解する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・資源・環境に配慮した生活スタイルについて考え、実行できる。 ・日々の暮らしの中で、持続可能な社会をめざした行動をすることができる。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

対象学年組： 第 3 学年 3 組～ 6 組

単位数： 2 単位

使用教科書： （ 実教出版 保育基礎 ）

教科 家庭

の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】 周りの生徒と共同しながら主体的に学び、保育に関わる知識や技術を身に付ける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 実際に乳幼児とふれあう学習など、実践的な学習活動を行う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 保育に関わる課題について思考を深め、課題を発見する。

科目 保育基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身につけている。子どもの発達特性、生活と保育に関する知識を総合的に身につけている。	子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めたうえで課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どものすこやかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身に付けている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・保育の意義と重要性について、幼稚園教育要領や保育所保育指針を取り上げながら扱い、保育が人間形成にどのようにかわるかを考える。 ・保育者にはどのような資質が求められるか、またそれを身につけるにはどのようにしたらよいかなど、保育者観についての考察を深める。 ・家庭での保育の現状や、幼児教育・保育の場（幼稚園や保育所、認定こども園など）の保育環境の特徴や役割を理解する。 ・子どもを取り巻く社会環境の変化や今後の保育の課題について理解し、子どもの健やかな発達のために適切な保育環境について考察する。	1 章子どもの保育 1 節 保育の意義 1 保育とは 2 保育の意義 2 節 保育の方法 1 保育者の役割とは 2 一人ひとりに合わせた指導 3 節 保育の環境 1 家庭での保育 2 幼児教育・保育の場 3 子どもが育つ環境の変化と課題	・保育者の役割を理解し、その資質や能力を身につけるにはどのような点に気をつけていけばよいかなど、考察ができる。 発達時期の特性を考慮した保育の工夫が必要であることを理解している。 ・発達時期の特性を考慮した保育の工夫が必要であることを理解している。 ・子どもを取り巻く環境が子どもの発達に大きな影響を与えることを理解し、発達段階における発達課題に応じて、接し方・援助の仕方・適切な保育環境整備について述べている。	○	○	○	10
	・乳幼児期は人の発育・発達において大切な時期であり、共通性や個性といった特性があることを理解する。 ・乳幼児期の身体的特徴と生理的特徴をとらえ、新生児期～乳幼児期へと続く人の発達の過程を理解する。 ・心の発達の土台として大切な愛着関係の形成過程について学び、親子関係の形成と人間関係のひろがりについて考える。 ・知的発達、言葉の発達、社会性・情緒など様々な側面から、子どもの心の発達をとらえる。	2 章子どもの発達 1 節 子どもの発達特性 1 発達と保育 2 発達の共通性と個性 2 節 子どものからだの発達 1 発育・発達の評価 2 身体的特徴 3 生理的特徴 3 節 子どもの心の発達 1 社会・情緒的な発達 2 知的発達 3 言葉の発達	・子どもを取り巻く環境が子どもの発達に大きな影響を与えることを理解し、発達段階における発達課題に応じて、接し方・援助の仕方・適切な保育環境整備について述べている。 ・誕生から幼児期までの子どもの身体発育、運動機能、認知機能などそれぞれの発達の特性について理解している。 ・子どもの心の発達の特徴と発達の経過について理解している。 ・人間関係の発達については乳児期の愛着の発達が重要であり、安全基地を土台として人間関係が広がっていくことを理解している。	○	○	○	8
	絵本や遊び、歌などの児童文化財や児童館などの子どもの文化を支える場が、子どもの健やかな発達とどのような関わりを持つか、その意義について理解する。	4 章子どもの文化 1 節 子どもの文化の意義と支える場 1 子どもの文化 2 子どもの文化を支える場	子どもの文化の意義を理解し、それらの役割や今後の課題について考察することができる。	○	○	○	10
2 学 期	・子どもの遊びと遊具や表現活動の意義や重要性などを、具体的に遊具等を作るなどの活動を通じて理解する。 ・遊びにおける保育者からの働きかけを考え、遊びの援助ができるようにする。	2 節 子どもの遊びと表現活動 1 遊びと発達 2 遊びと表現活動	・遊びを通じて子どもが豊かに発達することについて理解している。 ・子どもの発達や特性をふまえた上で、子どもの遊具等の作成に取り組み、子どもの遊びや表現活動に関連する技術を身につけている。	○	○	○	10
	・実際に子どもと触れあう機会や保育の様子を観察などを通じて、子どものものの見方や感じ方、子どもとの適切な関わり方など、保育への理解を深める。	巻頭 子どもとかかわってみよう（保育実習）	・保育実習において安全に配慮し、子どもと適切にかかわったり観察することができる。 ・保育実習の記録をまとめ、成果を発表することができる。	○	○	○	10
	・子どもが心身の健康を保つための保育の技術を身につける。 ・乳幼児期の栄養や食事（乳汁栄養や離乳食、幼児食など）の特徴を実習を通して理解する。 ・子どもの衣生活や育児用品について、身体特徴をふまえ、安全で快適に生活するために何が必要か選択できる。	3 章子どもの生活 1 節 子どもの生活と養護 1 生活と健康 2 栄養と食事 3 衣生活 2 節 生活習慣の形成 1 子どもの生活習慣 2 基本的な生活習慣 3 社会的生活習慣	・子どもの生活に関心を持ち、主体的に子どもの生活を理解しようとしている。 ・子どもの食生活や衣生活について子どもの健康的な生活を支える保育の基礎的な技術を身につけている。	○	○	○	8

3 学 期	・子ども観は国や地域，時代によって変化していることを理解する。 ・時代の変化と共に子どもが権利の主体として尊重する考え方が世界で共有されつつあることを理解する。	5章子どもの福祉 1節 子ども観 1 子ども観の変遷 2 権利の主体としての子どもへ 1年間のまとめ	・子ども観の変遷や，権利の主体として尊重されつつある状況を理解している。	○	○	○	4
							合計 60